

財団法人図書館

とくに児童を対象とした図書館の紹介

皆上 勝哉

はじめに

財団法人図書館は、『日本の図書館』2007年版によると県別の公共図書館の後に20館が載せられている。しかし、財団法人図書館の設立目的は、地域の住民及び児童を主対象としているのではなく、設立目的に掲げられた人たちを主対象として図書館の運営・活動を行っている。20館のうち宗教法人が設立した図書館が多く、その図書館の主対象利用者は児童ではない。また、図書館の中には、入館に際して年齢制限を設定している図書館や入館時に僅かではあるが入館料を徴収している図書館もある。

今稿では、『日本の図書館』2007年版に掲載されている財団法人図書館のうちから、児童及びその保護者を対象としている図書館を取り上げ、どのように活動しているか、図書館法第26条により私立図書館への補助金が禁じられているなかで、その運営をいかにしているかを紹介する。

【(財)ふきのとう文庫】

▲所在地 〒 063-0029 札幌市西区平和 325 番地

TEL・FAX 011-665-4839

http //www.community.sapporocdc.jp/comsup/fukinoto/

E-mail fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp

▲沿革と歩み

創立 1970 年 小林静江氏宅の子ども文庫を身体障がい児専用とした。

1974 年 郵送貸出開始

1976 年 文庫が続けてきた「図書郵送の無料化を求める国会請願」陳情の結果、身障者団体の第3種郵便料金の据置き、身障者への書籍小包料半額が実現

1979 年 財団法人設立認可

1982 年 現在地に「ふきのとう子ども図書館」開設

▲施設 2階建 床面積 234㎡ 1階事務室、図書館、拡大写本制作室・多目的ホール、展示室（プイルームを兼ねた）。2階 布の絵本制作室

▲蔵書冊数 約14,000冊 年間受入冊数 281 購入雑誌種数 12 登録入数 1,894
貸出点数 約8,000冊 予算額 図書館費800千円 資料費 750千円（蔵書冊数書から資料費までの統計は『日本の図書館』2007年。

▲ふきのとう文庫の理念と主な活動

会則 第2条

目的 この法人は、心身障害児（病弱児を含む、以下障害児）の福祉向上をはかるため図

書等を通じて情操を豊かにし、もってその福祉の増進に寄与することを目的とする。と掲げている。

▲長期入院やハンデキャップのある子どもたちに本に親しんでもらうためのさまざまな文庫活動や子ども図書館の運営は、多くのボランティアによって行われている。

主な活動

01 障がいをもつ子のための本づくり

視力障がい、肢体不自由、知的障がいの子どもの手指の機能や思考の訓練にもなる「布の本」、弱視児のための「拡大写本」の制作

02 ふきのと子ども図書館

ふきのと文庫活動の本拠地 図書館の項で記述

03 病院、施設内の文庫づくり

病院内に設置されている図書コーナーなどに、ふきのと文庫の本や布の本を寄贈貸出

04 郵送、訪問による本の貸出

遠隔地の障がい児や、長期入院児には往復送料を文庫負担で、また直接届けられる所はボランティアが届けている。

05 ボランティア研修会

06 布の本・拡大写本の展示会と制作講習会

制作については、図書館の項で記述

07 拡大写本の制作と研究推進

制作については、図書館の項で記述

08 子どもむけのイベント開催

当施設の多目的ホールを使い、読み聞かせ・紙芝居・人形劇・歌唱・楽器演奏を楽しむ「うたとおはなしの会」やテーマを決めて親子で作品を手作りする「手作りあそび」の開催。

▲ふきのと子ども図書館

開館日 毎週日曜日・火曜日の10:00~15:00 祝日も開館

貸出数は1人10冊まで、貸出期間は2週間以内



子ども図書館には、「拡大写本コーナー」、「永遠のベストセラーコーナー」、「月刊雑誌コーナー」、「バリアフリー関連の図書コーナー」、「大型絵本コーナー」、「布の本コーナー」などの設置、ほかに福祉、子育て、児童書関連の一般書も配架している。

蔵書冊数 約1万4千冊 入館者数 2,034人
貸出冊数 9,438冊(2008.10現在) 図書館業務は現在6人のボランティアが交代で行なっている。

(左写真 布の本製作グループの作業の様子に質問を交えながら見学)

ふきのと文庫では、他の図書館にない活動として、子ども図書館において「布の本、

拡大写本」の制作を行なっている。布の本は、単に布に絵を描いたり、刺繍をほどこしたりしたものでなく、布地やフェルト・ひも・スナップ・マジックテープ・ボタン等を用い、遊びのなかで、はずす・はめる・ひっぱる・合わせる等などの作業学習を行なう、絵本と教具、遊具を兼ね備えた本である。絵本としての美しさ、楽しさにも留意し、すべての子どもが、楽しい遊びをとおして様々な成長段階に対応できる要素をもっている。また、高齢者のリハビリに活用できるといわれている。この制作にはボランティアが活動している。実際に作ってみたいという人も多く、布の本を作るテキストや材料を販売している。

現在展示室にあるのは、布の本約 100 種類、布のタペストリー約 30 種類、布の遊具約 60 種類、年に数点の新作を制作。

▲拡大写本



弱視の人々の読書へのケアは、点字図書等に比較してまだ充分ではない。拡大写本は弱視の人々の読書活動に大きな力となる。拡大写本をつくる場合、拡大コピーすれば事足りるといった簡単なものでなく、縦書きを横書きにしたり、文字の打ち直しや色ぬりなど多くの人々の手を経て出来上がるものである。出版社や作者の許可を得た一般児童図書、漫画のほか漢字の読みや、書き順の本の制作にも取りくんでいる。現在約 20 人のボランティアが、年に 10～15 種類の本を各 6 冊づつ制作し、これまでに約 400 冊の拡大写本を制作した。

(上写真 大型絵本をベースにして作られた拡大写本の新作『ひとまねござるときいろいぼうし』)

▲運営

公的補助など一切なく、800 人を超える維持会員による会費と寄付金、赤い羽根共同募金、北海道新聞福祉基金、中央競馬馬主社会福祉財団からの支援、布の本・遊具・布の本をつくるためのテキストや材料セットの販売等による事業収入によってふきのとう文庫は運営されている。維持会員(年間一口 3,000)の加入、寄付やボランティアの協力を求めている。

パート職員 1 名以外全員ボランティアによる活動であり、布の本と拡大写本を扱う全国唯一の拠点であることから、文庫に求められることは大変多いにも拘わらず、ボランティアの不足に加えて高齢化のため、それに応えることが出来ない苦しい状況となっている。

▲ふきのとう文庫の活動に対して数々の表彰を受ける。そのうち主なものとして

- 1981 年 国際障がい者記念「障がい者福祉功労者賞」受賞
- 1990 年 全国ボランティア大会で厚生大臣表彰
- 1997 年 障がいのある人の自立と、社会参加推進功績に総理大臣賞受賞
- 2000 年 文部大臣より「子ども読書推進賞」受賞
- 2002 年 読書活動推進団体として文部科学大臣賞受賞
北海道新聞文化賞社会部門で小林静江受賞
- 2006 年 北海道新聞福祉振興基金 30 周年記念特別賞受賞

▲ふきのとう文庫出版物・販売品目

『HSK：ふきのとう文庫だより』（年3回刊行）～No.86（2008/10/10）

布の本テキスト・材料セット

（上記ふきのとう文庫に記載した文章は、ふきのとう文庫のHP及び文庫の諸資料からの抜粋、引用である。）

【(財)金森和心会クローバー子供図書館】

▲所在地 〒963-8851 福島県郡山市開成6-346-1

TEL・FAX 024-932-2118

▲沿革と歩み

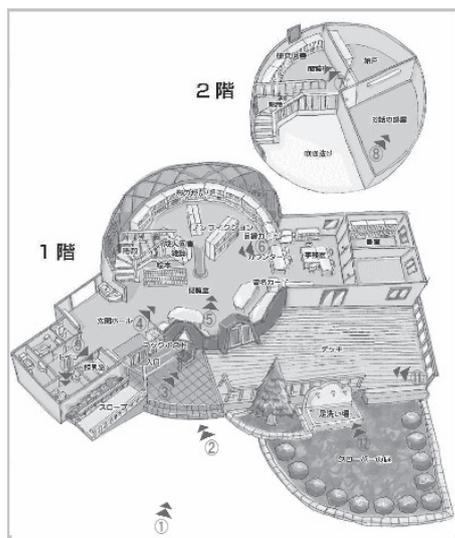
創設 1952年 開館

1955年 図書館新築(木造平屋 19.25坪 うち閲覧室 16.5坪)。

1963年 財団法人郡山精神病院(現：金森和心会)による運営。

2007年 建物を現在地に新築移転、児童の個人貸出を再開。

▲施設 建物 木造2階建(2007年5月竣工) 延床面積 187㎡



(丸いドーム型屋根の図書館)

▲蔵書冊数 21,636(平成20年3月現在)

児童図書 16,652冊 一般図書 4,737冊

雑誌 28種

視聴覚資料 紙芝居 247巻 CD 17本

VHS 162本

除籍冊数 児童書 1,603冊 一般書 585

休館日 月曜日 第2・4土曜日、祝日・月末・年末
年始・特別整理期間(春10日間)

開館時間 1300～18 00

▲登録人員 869人 幼児 152 小学生 244

中学生 33 成人 440 入館者 7,516人

(左図 新装オープンした図書館)

個人貸出 幼児・児童 1,264人 冊数 4,457冊

成人 1,987 冊数 5,870

団体貸出 団体数 11 対象会員数 781人 貸出冊数 1,246

図書館費 17,935千円 資料費 1,417千円

(前記登録人員から資料費までの統計は、「平成19年度クローバー子供図書館事業報告による。登録人員から団体貸出までの統計は、平成19年年8月1日再オープン以後114日間の統計)



(1階閲覧室)

▲設立者とその理念など

クローバー子供図書館は、子供の頃から良い本と出会い、読書を通じて良い親子関係を築き、子ども達の健全な心の育成をはかるとともに、地域の方々の精神保健の充実のために貢献することを目的としています。クローバー子供図書館は、子供だけでなく、どなたでも（市外在住の方でも）ご利用になれます。

▲クローバー子供図書館 3つの基本コンセプト

1. 健やかな子供の心を育てる図書館。
2. こころとからだの病気を理解するための図書館
3. 高齢者と子供の関わりの場としての図書館。

▲行事・諸活動

おはなしかい 毎週金曜日(15:00~15:20) 31回開催 参加人員 147名

月・季節にあわせて 2008年の10月以降

10月18日 あきの読書週間「おたのしみ会」

11月9日 ステンシルできんちゃくをつくろう！

12月6日 フェルトでつくる なかよしぐりとぐら など

▲施設見学、体験学習、実習、研修などの受入

▲出版物

1970年 「クローバー子供新聞」改め「だんごっばな」創刊

1993年 児童図書館研究会による調査『子どもたちはこんな本を読んでいた！クローバー子供図書館読書調査報告書（創立から10年間）』発行

2008年 館報『クローバーつうしん』創刊

▲(財)金森和心会 とは

1933年福島県で初の精神科病院を郡山市に開設、1980年現在の針生ヶ丘病院と改称。福島県の中央に位置する郡山市には針生ヶ丘病院(451床)、県東部の南相馬市には雲雀ヶ丘病院(254床)の2つの精神科病院を、また、子供の頃からの健全な心の育成をはかるため、クローバー子供図書館を針生ヶ丘病院北側に開館した。

▲金森和心会クローバー子ども図書館の活動に対して数々の表彰を受ける。そのうち主なものとして

1956年 文部大臣より奨励賞を受ける

北日本図書館協会および同連盟より表彰を受ける

1972年 読書推進運動協議会より第2回読書推進賞を受ける

1985年 全国公共図書館協議会会長より表彰を受ける

1987年 伊藤忠記念財団より子ども文庫功労賞を受ける

- 1994年 街こおりやまより第5回ふるさと大賞を受ける
 1998年 国立国会図書館国際子ども図書館等に寄贈(6,400冊)
 2008年 子どもの読書活動優秀実践図書館として 文部科学省から表彰

【(財) 東京子ども図書館】

所在地 〒 165-0023 東京都中野区江原町1-19-10

▲沿革と歩み

創設 1955年

1955年 土屋児童文庫開設(土屋滋子) 東京・世田谷

1956年 入舟土屋児童文庫開設 東京・中央

1958年 かつら文庫開設(石井桃子) 東京・杉並

1967年 松の実文庫開設(松岡享子) 東京・中野

1971年 東京子ども図書館設立準備委員会発足

1974年 財団設立認可

1995年 石井桃子奨学研修助成金制度発足

1997年 中野区江原町に新館完成、移転



(東京子ども図書館の正面玄関)

▲施設 敷地面積 366,91㎡ 建築面積 220,43㎡ 延面積 550.01㎡

構造 鉄筋コンクリート造 BF 162.58㎡、1F 214.29㎡、2F 173.14㎡

▲休館日 日、月、木曜日、年末年始

開館時間 児童室 火・水・金曜日 13:00～17:00

土曜日 10:30～17:00

資料室 火・水・金曜日 10:00～17:00

土曜日 10:00～19:00

事務室 火～金曜日 10:00～17:00

▲蔵書冊数 児童室 約7,400冊 かつら文庫 約2,900冊 資料室 約16,500冊

東京子ども図書館は、東京にある四つの家庭文庫【石井桃子のかつら文庫】、【土屋滋子のふたつの土屋児童文庫】、および【松岡享子の松の実文庫】を母体として発足、法人組織の私立図書館。1974年に東京都教育委員会から公益法人の認可を受ける。以来、子どもたちへの直接サービスのほかに、“子どもと本の世界で働くおとな”のために、資料室の運営、出版、講演・講座の開催、人材育成のための奨学助成、研修生制度など、さまざまな活動を行っている。

▲東京子ども図書館は、本を読むたのしさを身近にいる子どもと分かち合おうと、家庭を開放して生まれたこれらの小さな図書室は、子どもたちにとって自由な読書の場であっただけでなく、そこに关わるおとなたちにとって、またとない学びの場となりました。

▲活動案内

*子どもへのサービス

- 児童室 幼児から中学生までを対象
- かつら文庫 東京子ども図書館の分室 東京都
杉並区荻窪 3-37-11

- 学校訪問

*おとなへのサービス

- 資料室 内外の児童図書、児童文学関係の研究
書など約 16,500 冊



(資料室)

戦後日本の児童図書賞を受賞した図書約 1,700 点のほかにカーネギー賞、ニューベリー賞など英米の図書賞の受賞作品(原書)の収書、館外貸出、読書相談、レファレンスサービスを行う。

- 講演・講座

△お話の講習会 月 1 回、2 年間に亘り子どもたちにお話を語ることの基本を学ぶ講習。

お話を語り、聞く実習を中心に関連図書の講読、レポートの作成など約 30 単位の修得が必要

△子どもの図書館講座 子どものための図書館サービスに関するテーマで、月 1 回、3～10 回連続で行う。公共図書館の児童室、学校図書館、文庫の運営に関わる人、及びそれらをめざしている学生などを対象。

△講師派遣・その他

- 大人のためのお話会

△月例お話会 毎月第 4 火曜日午後 8 時からホールで開催

△昼のお話会 年 4 回開催

△その他；

▲人材育成

- 石井桃子奨学研修助成金 石井桃子氏寄贈の基金をもとに 1995 年発足した助成制度
子どもと本に関わる仕事への従事者、将来従事を志している人への勉強と研修の助成金
制度

- 研修生制度 将来、児童図書館または学校図書館で働くことを目指している、25 歳まで
の人を対象、1 年間東京子ども図書館で働きながら研修を受ける。期間中、研修助成金
が受けられる。

▲出版活動

◆機関誌『こどもとしゃかん』季刊 ISSN 0387-9224

◆『おはなしのろうそく』1～27 [以下続刊] 各 420 円

てのひらにのる小さなお話集。幼児から小学校中・高学年までたのしめる日本や外国の昔話、創作、わらべうた、指遊びなど収録。1973 年刊行以来語りのテキストとして

圧倒的な支持を受け、150 万部を超えるロングセラーとなっている。図書館、文庫、幼稚園、学校、家庭などの読み聞かせにも利用してもらいたい。

- ◆愛蔵版『おはなしのろうそく』1～8「以下続刊」
- ◆『たのしいお話』シリーズ 1～8
お話について、ていねいに論じた入門書
- ◆『レクチャーブックス』
- ◆『ブックリスト』
- ◆『日本の児童文学賞』 戦後の日本の児童図書、児童文学関係の賞を広範に調査した情報を掲載「1947－1981年」、「1982－1986」、「1987－1991」、「1992－1996」
- ◆その他
- ◆印の図書は東京子ども図書館刊

▲東京子ども図書館の活動に対して数々の表彰を受ける。そのうち主なものとして
1974年「第14回久留島武彦文化賞特別賞」

(財)日本青少年文化センターより

2000年「子ども読書年記念野間読書推進賞特別賞」

(社)読書推進協議会より

2003年「子どもの読書活動優秀実践図書館」表彰

文部科学省より

以上 「東京子ども図書館ごあんない」及び「東京子ども図書館年次報告2007」、その他からの抜粋と引用

【(財)眉丈文庫】

▲所在地 〒 933-0916 富山県高岡市大町13-3

TEL 0766-26-2736 FAX 0766-26-2735

E-mail bijyou77@yahoo.co.jp

▲沿革 1927年創立 設立者金田眉丈(万延元年・1860～昭和9年・1934)

1989年 新館完成(旧館横に)

▲施設 床面積 544㎡、B1 閉架(美術・工芸品関係の貴重書)、1階 児童図書、

F2 一般図書、閲覧席 30

職員 6名

▲休館日 日、月曜日、国民の祝日・休日、蔵書点検期間、お盆、年末年始

開館時間 10:00～17:00

▲蔵書冊数 60,215(うち児童書 10,748)、年間受入冊数 1,297(うち児童書 368)

開架冊数 21,694(うち児童書 7,997)、購入雑誌 23種、

登録者数 409人(うち児童141人)、貸出冊数 7,276(うち児童書 2,760)

図書館費 38,020千円、資料費 6,000千円 (蔵書数から資料費までの統計は『富山県の公共図書館』2008年より)

図書館・蔵書の特徴 児童書や美術・芸術関係の図書に特化、地下1階の閉架書庫には、漆器や染色の技術、製品を紹介する美術書、江戸時代の大名家の美術品が競売にかけられる際に作られた目録や戦前に書かれた中国に関する研究書などが収蔵されている。



(1927年創立の旧館図書館)

▲設立の目的・経過など

1927年呉服商で俳人の金田眉丈が私財2万数千円を投じて財団法人を設立、自宅の一部と土蔵を図書館として一般に公開。高岡市商工業の特色である銅器や漆器地場産業に携わる地元の人たちに美術工芸に関する資料の提供を目的に開設。眉丈文庫3代理事長の金田恒二氏(1917～2002)は、文庫の蔵書拡充よりも、学校図書館の充実に主眼をおき、1978年から13年間にわたり市内の小中学校や高校、児童文化センターなどへ図書費として毎年各10万円を寄贈し続けた(小学校は26校全てに寄付)。また、1989年新館を完成させた。



(受付カウンター)



(児童室)

上記記事は、すべて①『富山県の公共図書館』(2008/9発行)、②『富山県図書館協会報』No.166(2008/3発行)、③『高岡の図書館』第86号(2008/7発行)、④『読売新聞』(2004/9/19掲載)からの抜粋、引用である。

【特定非営利活動法人高知こどもの図書館】

▲所在地 〒 780-0844 高知市永国寺町 6-16

Tel 088-820-8250

Fax 088-820-8251

E-mail kodomo@i-kochi.or.jp

▲沿革 1999年

3月「高知こどもの図書館」設立発起人会

4月 特定非営利活動法人格取得申請

高知こどもの図書館準備室開設

7月 特定非営利活動法人（NPO法人）認証

9～11月 施設改修

12月 高知こどもの図書館開館



（巡回こどもの図書館 梶原町）

▲施設 床面積 678㎡ 1階 事務室、こどもの本のコーナー、ヤングアダルトコーナー
2階 こどもの図書館研究資料室、多目的スペース、会議室、作業室

職員 3名（専任）

▲休館日 火曜日・木曜日・年末年始

開館時間 10:00～18:00

貸出冊数 一人5冊 貸出期間 2週間

▲蔵書冊数 28,000冊 購入雑誌 5種 個人登録 7,150人 貸出点数 28,000

図書館費 760千円 資料費 660千円

（蔵書から資料費までの統計は、『日本の図書館』2007年版による。）

▲高知こどもの図書館の役割

○児童図書（乳幼児からヤングアダルトまでを対象に）を中心とする本、その他様々なジャンルの資料が揃っており、誰でも気軽に利用できる図書館です。

§ 子どもへの直接サービスを行います。

§ こどもの本に関する研究を行います。

§ 児童図書館員の専門性を高めるための活動を行います。

○ こどもの図書館として可能な子育て支援を行います。

▲設立の理念と経緯

この図書館は、こどもの読書環境を整えることが大切だと考える大勢の人たちが力を合わせてつくりました。行政、市民も、それぞれが知恵と力を出し合って語り合う中で新しい形の図書館が生まれました。

建物は高知県から借り受け、特定非営利活動法人（NPO法人）で運営します。

開館時の本は、30年間、地域でこども文庫をしてきた人の蔵書と何人かの個人の蔵書、約2万冊がベースになりました。

この図書館が本と人とを結ぶ場所、人と人とがふれあう場所、こどもの自由が尊重され、

こどもと、こどもに関わる人たちの心やすらぐ場所となるよう願っています

▲各種行事 月、季節にあわせていろいろな行事を行っている。最近の行事の紹介

【12月の行事】

企画展 2階多目的スペース

◇「クリスマスの本」 (～12/24)

1日(月) 基礎からはじめる折り

紙教室 (10:00～12:00)

6日(土) こども折り紙教室

(11:00～12:00)

12日(金) 講座 絵本の時間

(10:00～12:00)



(ボランティア養成連続講座の1コマ)

13日(土) クリスマスのかざり作り (14:00～16:00)

21日(日) 12月のおはなし会 (11:00～11:40)

【1月の行事】

企画展 2階多目的スペース

◇「干支とむかしあそび」(1/11～2/22)

5日(日) 基礎からはじめる折り紙教室 (10:00～12:00)

10日(土) こども折り紙教室 (11:00～12:00)

25日(日) 1月のおはなし会 (11:00～11:40)

▲運営

運営は、県から建物の無償貸与と水道光熱費の補助(年間約180万円)を受けているが、年間約1400万円の経費は、650人の会員が納める会費と寄付で大部分をまかなっている。年間会費は約500万円・寄付等が約300万円・その他は助成金及び自主事業の収入。自主運営として、職員(専任スタッフ)の講演料・バザー・売店・企画展等がある。経費としては専任スタッフの人件費540万円(一人月額15万円)、年間図書購入費250万円(図書購入のための寄付金含む)、その他資料等の費用でなかなか厳しい運営を余儀なくされている

総務文教委員会行政視察平成15年1月27日(月)NPO法人高知こどもの図書館(高知県高知市) (www.kvision.ne.jp/~t-isobe/shisatu/shisatuf08.htm)からの引用

上記特定非営利活動法人高知こどもの図書館の記事は、HPそのたのWWWからの抜粋、引用である

【(財) 童心会児童図書館】

▲所在地 〒 871-0055 中津市殿町 1380-1

TEL 0979-22-2556

創立 1964年

▲施設 構造 2階建

敷地面積 1,148 m² 建坪 510 m²

▲蔵書冊数 18,200 (2008年3月現在)

職員数 3名 (館長を含む)

童心会館利用者 16,548人 (2007年度)

▲設立者及び設立の理念

村上功児 (1879～1963) の功績を記念して
発足した社会教育施設である。



(童心会館正面)

氏は生前よく「なにか郷土の児童のためになることをしたい」といっていたので、氏と親交の深かった玖珠郡出身で日本のアンデルセンといわれた童話家久留島武彦 (1874～1960) と当時井筒屋の社長菊池安右衛門が中心となり「児童を中心とした図書館を持つ童心会館」建設の構想を練り、村上功児氏の寄付金を基礎として会館設立の世話人をつくり、氏の知人、友人、関係者、地元中津の有志などの醸金により財団を設立、敷地は菊池次郎氏の提供を受けて建設に着手、1964年に竣工した。

▲活動目的

児童図書館のほかにおもちゃ図書館、児童館の活動領域を併せ持つ施設として、児童の健全育成と青少年の教育的助長を図り、広く地方文化の発展に寄与するとともに一般成人に対する生涯学習の要望にこたえて、施設を地域住民に開放して、生涯学習センターとしての機能を果たすことを目的としているとしている。

▲事業

- ①児童図書館、おもちゃ図書館、児童館などの運営事業
- ②放課後児童クラブの運営事業
- ③子育て支援のための事業
- ④学校教育を支援するための事業
- ⑤地方文化発展のための事業
- ⑥その他目的を達成するための事業

▲童心会活動

- ①放課後児童クラブ「どうしん」(中津市放課後児童健全育成事業)の取組

平成19年度は継続事業として8年目 年間281日

対象児童 中津市立南部小学校 1～3年生

開所日 4月1日より翌年3月31日とし、次の日をのぞく。

日、祝、祭日、第4土曜日、お盆(8月13日～16日)、年末年始、その他、

②「どうしん」つどいの広場（中津市つどいの広場事業）の取組 継続事業として6年

③おもちゃ図書館の取組



おもちゃの貸出 第1・3土曜日午後、第2・4火曜日の午前 ボランティアの協力で実施

所蔵点数 約400点

（左おもちゃ図書館の内部写真）

* おもちゃ図書館は、障がいのある子ども達におもちゃの素晴らしさと遊びの楽しさとの願いから始まったボランティア活動である。

その始まりは1963年スウェーデンで、ハンディのある子どもの母親の運動から始まり、イギリスで発展した。日本では、国際障害者年(1981年)ボランティアによって東京三鷹市で誕生した。現在、たくさんのおもちゃ図書館が各県にあり、「おもちゃの図書館全国連絡会」が結成されている。

④たんぽぽお話会の取組

第1土曜日の午後 中津読書会「たんぽぽ」が「たんぽぽお話会」を実施

内容 読み聞かせ、大型紙芝居、エプロンシアター

会館内のみならず、中津市内及び近隣の学校・保育所・病院などの施設の訪問

⑤第45回どうしん子ども大会とバザーの取組

⑥広報誌「童心」の発行

・「どうしん会館だより」2008年1月から月刊で発行

▲各種統計

図書貸出状況						
	貸出人数			貸出冊数		
	大人	小人	合計	大人	小人	合計
平成19年度	76	557	633	306	1584	1890
平成18年度	154	886	1040	546	2849	3395

童心会 おもちゃ図書館利用状況				
利用幼児数				
		男子	女子	合計
平成19年度	6歳児	0	0	0
	5歳児	4	0	4
	4歳児	7	6	13
	3歳児	14	6	20
	2歳児	16	19	35
	1歳児	30	23	53
	0歳児	13	17	30
	合計	84	71	155
平成18年度		142	116	258

▲今後児童図書館の課題

財団法人童心会は、講演会からの寄付により運営されており、設立後45年を経過して、蔵書の更新は進んではいない。また子どもたちの読書ばなれと相俟って図書館の利用状況は、減少をたどっている。マンガ本などを購入してあらたな読者層の開拓をはかっている（岡田幸正館長談）

▲（財）日本おもちゃ図書館財団から2008年度に、20年間たゆまず活動を続けてきた「おもちゃ図書館」として表彰を受ける

【(財)松本記念児童図書館 通称「おじいさんのもり」】

▲所在地 別府市西野口町4番1号

TEL 0977-21-4646

創立 1985年

▲施設 敷地 2,237㎡

鉄筋平屋建一部2階 総床面積483㎡

1階(開架室、父母読書室・事務室)384㎡

2階(予備室)99㎡

▲休館日 毎週火曜日、毎月29日、

8月13～15日、12月28～1月3日

開館時間 平日 12時30分～5時

日曜、祝日 10時～5時

▲蔵書冊数 21,408冊、視聴覚資料

平成19年度末現在の廃棄本累計 8,135

登録者数 2392人 利用者数 5,911

貸出冊数 13,981

▲設立者と設立の理念など

「おじいさんのもり」は、(株)大分瓦斯会

長であった松本得一氏によってつくら

れました。松本氏は生前より、子どもたちの

ために図書館をつくりたいと望んでいま

ましたが、1984年に94歳でなくなりました。松

本氏の夢は、遺族に引き継がれ、全遺産が寄

付され、「財団得愛会」が設立されました。そ

して、1985年11月3日、松本氏の自宅屋敷

跡に、松本記念児童図書館(通称、おじい

さんのもり)が開館しました。

「おじいさんのもり」とは、たくさんの樹

木に囲まれた図書館です。その樹木には、樹

齢百年以上のもも多く、子どもたちはおじ

いさんがたててくれた図書館であることから、「おじいさんのもり」と言っています。

別府駅近くにありながら「おじいさんのもり」といわれるに相応しい樹木に囲まれ、街の

喧噪を忘れさせる閑静な図書館である。

▲平成5年日本図書館協会建築賞〔特定賞〕受賞

文部学習科学省から平成14年度子どもの読書活動優秀実践図書館として表彰を受ける



(図書館への入口)



(閲覧室)



(閲覧室)

表彰理由

開館以降、17年間にわたり、地域及び地域外の子どもたちに、本に親しみ読書の楽しさを知る機会や場所を提供してきた。また、職員の選書の方法などが、子どもの読書に関心のある団体や個人のモデルとされている。

上記図書館以外にいくつかの図書館が児童を主に対象としていないが、関連があり簡単に紹介する。

【(財)石川文化事業団お茶の水図書館】

▲所在地 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-9

TEL. 03-3294-2266 FAX. 03-3291-1836

[http //www.ochato.or.jp](http://www.ochato.or.jp)

▲2003年から「女性・生活・実用」をテーマとし、18歳以上の女性専用の図書館として発足。児童と女性とのことで関連性は若干あるが、児童を主対象とする図書館でないことで、詳細を割愛した。

【(財)三康文化研究所三康図書館】

▲所在地 〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-4 明照会館 1F

TEL 03-3431-6073 FAX 03-3431-6082

Eメール sanko@f2.dion.ne.jp

入館資格 16才以上

▲設立目的

「仏教文化に関する研究調査を行い、あわせて研究者の育成を図り、もって学術文化の発展に寄与することを目的とする。」としている。ただし、三康図書館は、前身の(財)大橋図書館時代(明治35年開館昭和28年解散)は児童室において児童向けのサービスを行っていたが、現在三康図書館では児童書は研究者のみに閲覧を許可しており、児童向けのサービスは行っていないとのことで、詳細を割愛した

あとがき

財団法人で児童を主対象とした図書館を紹介してきたが、これらの図書館の創設者とその図書館を引き継いで方々が、子ども達に対して本当に深い愛情を注いでいることが理解できた。また、図書館の理念に共鳴して賛助会員・維持会員になられた方々の多いことや、ボランティアとして働いている人たちが多くいることなどからも理解できる。

明治から昭和初年までに設立された公共図書館では、乳幼児の図書館入館について、年齢制限を設けているところが殆どであった。完全に入館制限が撤廃されたのは、1950年図書館法制定以後である。

前述の児童図書館は、設立の早いところでは戦前や戦後早い時であった。この時期すでに、児童の入館を許可した図書館や児童専用の図書館が開館し、また構想していたのは驚き以外のなにものでもない。

現在、公共図書館の運営は非常に厳しく、指定管理者制度を活用する図書館、委託事業を利用する図書館などがみられる。

図書館法第 26 条で私立図書館への公的援助は禁じられている。私立図書館の運営は従来から非常に苦しく、活動費そのものを自前で調達しなければならず、賛助会員による会費や、事業収入と寄付金等で賄ってきた。今後はさらに図書館の活動を活発にして、賛助会員の増員、事業収入や寄付金の増加、活動を支援してくれるボランティアを増やしてゆく以外にないだろう。

新公益法人制度が 2008 年 12 月に発足した。既存の民法法人は、公益法人か一般法人かの選択をしなければならない。現在の財団法人は経過措置として、一般財団法人として存続し、法律上の名称としては、特例財団法人と呼ばれる。2008 年 12 月から 5 年の間に、公益事業を行う場合には公益財団法人認定の申請をしなければならない。公益法人に認定されれば、その公益性の故に、一般の人々の支援・協力を仰ぎやすくなり、寄付活動も促進される。(財)図書館の運営は改善され、活動はより活発になるものと期待される。

今稿の作成にあたり、上記図書館には大変協力をいただいた。図書館のHPからの引用・抜粋の許可、写真掲載、今稿のための写真の撮影、質問の回答、校正など、図書館業務豊富な折り、貴重な時間を割いて協力いただいたことに深甚なる感謝を申し上げたい。

*上記で紹介し図書館は、現在 WEB 上で財団法人の名称となっているので、これまでの名称をそのまま使用した。

(あざかみ・かつや 別府大学非常勤講師)